



学芸大生のための雑誌入門



新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。

今回のまめりブは、大学での情報収集に欠かせない雑誌を特集します。大学に入学すると、新生活のスタート、授業の課題、サークル活動、就職活動、卒業論文と、自ら情報を集めることが必要な機会がたくさんあります。

普段はウェブサイトでの情報収集が多いかと思いますが、テーマによって情報が編集されている雑誌というメディアは、ウェブにはない「偶然の出会い」があります。

ぜひ、まだ見ぬ世界との素敵な出会いをお楽しみください。

★先輩がレポート・卒論の相談にのります!★

図書館には、大学院生の先輩が学生(学部生)のみなさんの**授業の課題のレポートや発表、卒論などの相談にのってくれる学習サポーター**という制度があります。

サポーターの先輩は4/16から原則毎週月曜日12:00から15:00の時間に図書館1階のカウンター横にいますので気軽に相談してみてください。(4月は文学・歴史学などの人文学分野のみ)

上記の時間以外にも平日8:30-12:00, 13:00-16:30の時間で職員が相談にのります。詳しくは図書館ウェブサイトをご覧ください。

🌸 編集長のコラム

夏目漱石はあるエッセイで、「自分が大学(東京大学)に勤める最大の楽しみは『新着雑誌』を読むことができることである」と書いていたと記憶する。雑誌の始まりは1646年ごろだが、雑誌の英語=Magazineには「爆薬庫」の意味もある。新しい情報・知見は雑誌論文・記事として掲載され社会を動かす「起爆剤」となる。雑誌の目次や見出しに目を通すだけでもいい。そして、<知の起爆剤>を手にすることを期待しています。



🌸 学芸大生のためのビジネス誌入門

～雑誌『日経ビジネス』の紹介～

(総合社会システム教室、内田 賢)

日経ビジネスの記事は人間ドラマだ!

日経ビジネスは日本経済新聞グループが発行している週刊誌—となれば経済や企業経営の記事が満載のビジネスマン向けの雑誌と思われるでしょう。

確かにその通りなのですが一方で、気楽な読み物も豊富です。この雑誌に載っているのは**組織や人間のドラマ**が多いのです。

たとえば・・・

- ◎ グローバル化のために海外進出を余儀なくされ、見ず知らずの異国で悪戦苦闘する地方中小企業の奮闘記
- ◎ ひょんなきっかけから生まれた商品が会社の予想に反して大ヒットするまでを支えた人々の物語
- ◎ 逆境に置かれながらも世界で一流になったスポーツ選手やアーティストの秘話

反対にそれまでの成功から一転してどん底に落ちてしまった経営者や政治家が反省を述べるインタビューなど、興味深く読める記事も多いのです。

教員を目指す人にも役立つ!

おそらくこの雑誌に一貫しているのは・・・

ビジネスや仕事に生きる教訓や考え方、アプローチを、企業やビジネスマンを超えた幅広い対象から得ようとしていること

なのでしょう。そこで、日経ビジネスは一見すると企業と無縁なテーマも取り上げています。

企業も官庁も学校も、そして宗教団体も組織であり、立場の異なる多くの人々が協働しています。つまり人々の協働組織として共通点が多いのです。

企業の経営戦略、経営者の仕事の進め方などは、企業と縁がないと思われるかもしれませんが、学校や教員、官庁や公務員にも参考になります。

この度、日経ビジネスが図書館に入るとのこと、とりあえずは暇つぶしにパラパラとめくってみてはいかがでしょうか?

図書館職員メモ

本学に所属している方(学生・教職員など)は、雑誌を翌日までお借りいただけます。(3冊まで)

ご希望の方は学生証(または利用証)と一緒に雑誌をカウンターまでお持ちください。



おすすめ雑誌 8選

図書館入口
で展示中
(2012/4)

『日経サイエンス』

(月刊 日経サイエンス社)

話題になっている最新の研究成果をわかりやすく、おもしろく解説してある科学雑誌。科学や技術というものにどのように向き合っていけばいいのか模索している方にもおすすめの雑誌です。別冊では震災の特集も組まれています。

『新潮』

(月刊 新潮社)

「白露戦争の年(1904年)に創刊された、百歳を超える文芸誌」(HPより)という由緒正しい文芸誌。執筆者も有名作家、評論家がずらり。短編小説、連載小説、書評、評論など読み応え十分。知的好奇心の強いあなたに。

●2012年1月号の記事紹介

「災いの後に笑う」古井由吉×又吉直樹

読書芸人ピース又吉と小説家古井由吉の対談記事です。43歳差、東京出身東大卒と大阪出身特技はサッカー、小説家と芸人という何もかもかけ離れた二人の対談。微妙に噛み合わない話が続きます。

『本の雑誌』

(月刊 本の雑誌社)

もともと本が好き、というより活字中毒の人たちから生まれた雑誌。なのでひたすら本の話ばかりです。個性的な執筆者が多く、一見地味ですがよく読むとつぼにはまります。本好きのあなたに。

●2012年3月号の記事紹介

「本屋さんのない街にて」円城塔

サンフランシスコの街中には本屋さんがいない。ではサンフランシスコの人は本を読んでいないのか?もちろんそうではない。これは近い将来日本でも起きるかもしれない現実なのだ。さてそのとき芥川賞作家の考えたことは…

『NHKきょうの料理ビギナーズ』

(月刊 日本放送協会)

NHK教育テレビ(Eテレ)で放送されている5分間のミニ番組『きょうの料理ビギナーズ』のテキスト。料理初心者向けの内容だけあって、その分かりやすさはピカイチです。調理のポイントがひと目で分かり、食材の扱い方や調理用具の解説もあって、料理の基本を知ることができます。また、料理のレシピだけでなく食べ物エッセイも充実し、読み物としても楽しい。テレビでもおなじみの人気キャラクター高木ハツ江おあちゃんも、いい味出しています。4月から一人暮らしをはじめた料理ビギナーのみなさん、まずはこの雑誌を見て自炊しませんか?

『東京人』

(月刊 都市出版)

「『都市を味わい、都市を批評し、都市を創る』がキャッチフレーズの新機軸の都会派総合誌」(HPより)だそうです。かなり濃い雑誌である。ディープな東京を知りたい方、渋好みの方、若者らしくないと言われるあなたに。

●2011年4月号の記事紹介

「特集 潜入!土木工事の現場

～巨大プロジェクトの「立入禁止」を一挙公開」

首都高速中央環状品川線の工事現場、東京スカイツリー、渋谷ヒカリエなどの巨大スケールの工事現場へ潜入!大都市東京の裏側が見られます。

『月刊MOE』

(月刊 白泉社)

絵本とキャラクターの情報誌。毎年2月号で特集される“MOE絵本屋さん大賞”では、過去一年間に発行された絵本のうち、絵本専門店・書店員さんが選ぶおすすめ絵本30冊がランキングで紹介されています。定番ロングセラーだけではない良質の絵本に出合うことができるでしょう。また、著者へのインタビュー記事も充実しており、絵本のできたきっかけや背景、著者の人柄まで知ること、より深く絵本の世界を楽しむことができます。

絵本だけでなくキャラクターの情報誌として、毎号、特定のキャラクターが特集されています。ここ最近の号では、ムーミン、アンパンマン、「くまのがっこう」など。知っているようで実は詳しくは知らないキャラクターについて、その世界観を知ることがわくわくします。

『COURRIER Japon(クーリエ・ジャポン)』

(月刊 講談社)

世界を知るための入り口になる雑誌。世界中の新聞・雑誌などのメディアに掲載された記事を集めて、編集しなおして、翻訳してあります。外国のメディアが日本をどのように報道しているのかという視点でみることもでき、日本のメディアがあまり扱わない情報に触れることもできます。

『ブレン：広告とマーケティング』

(月刊 宣伝会議)

デザイン・映像・広告の専門誌。広告業界の“いま”を伝えていきます。

広告・CM制作の裏側から見える、ひとつのものを創り上げる過程や企業広告戦略は、興味深いだけでなく、社会を知るのに役立ちます。また、第一線で活躍するクリエイター達の思いや生き方、アイデアの源からは、学ぶことが多くあり創造力と感性が磨かれます。

この雑誌は、学生さんのリクエストで今年度から購読することになりました。みなさん、活用してください。